

【序論】

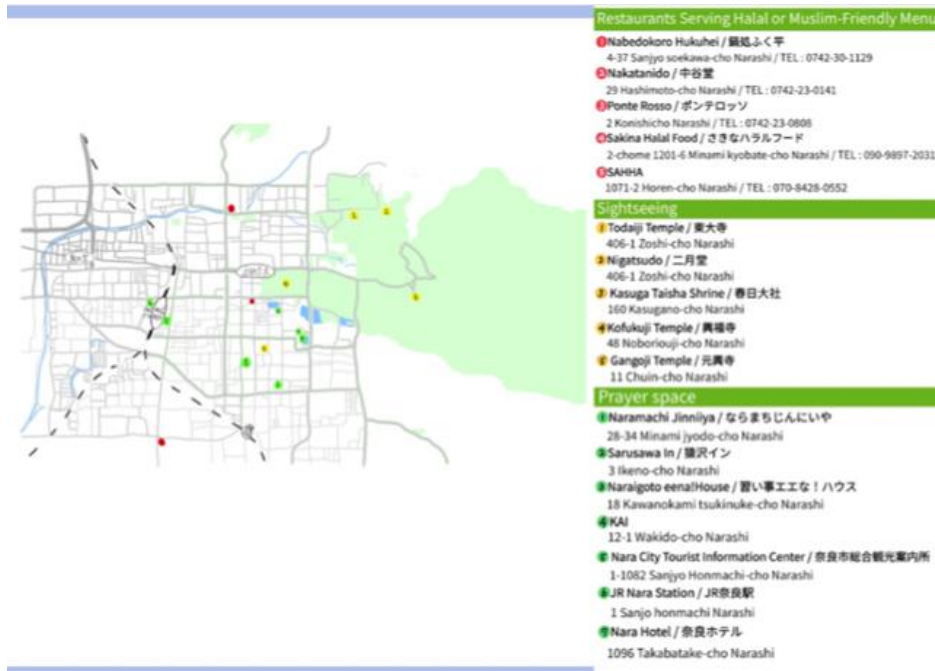
私は多文化共生をテーマに取り組んでいる。動機として、国際高校に入学し、グローバル探求で世界のことについて学んだり、考える時間が増えたことがきっかけで多文化共生に興味があり、グローバル化が進んでいる中、私にもできることがあるのではないかと思ったからである。日本で多文化共生を実現するためにはどうすれば良いのか。最初に私たちは、日本での多文化共生を実現するためについて考えることにした。しかし、まずは自分達が住む奈良から変えていきたいと思い、奈良の多文化共生をテーマに取り組むことにしたのである。このテーマに取り組むことになったきっかけは、このゼミの授業でイスラムについて考えたことがきっかけである。初めにイスラムの生活と宗教について学び、豚肉を食べてはいけない、アルコール飲料を飲んではいけない、年に一度、約1ヶ月断食する、1日5回の礼拝などがあることを知った。食事の制限に異質に感じた反面、イスラムの礼拝が、日本人が神社で拝むのと同じだと考えた。また欧米などの一部でイスラムに対する排斥や差別が起こっていることを知った。これのことからイスラム教徒との共存が重要になってきているのは、テロなどでイスラム教徒への勝手な偏見を持っているからだということに気づいたのである。私たちは、イスラムに限らず、海外の人と接する時は表面的に異質な部分だけを捉えるのではなく、共存できるところを見つけ、相手の立場にたって共存の方法を考えたいと思った。現状として、太田(出典)によると世界人口の四人に一人がイスラム教でキリスト教に次ぐ一大勢力の宗教になってる。(太田雄造,2018)しかし、日本でもその人口が増えつつあるのにムスリムの方向けの情報がまだあまり普及していないと思った。だが、スタディーツアーで訪れた別府市では、ハラルマップというマップを作っていることを知った。このハラルマップというのは、イスラム教徒の人が食べることの出来る食材を扱っているお店を集めたマップのことである。そこで私たちは、奈良に訪れる外国人観光客向けにハラルマップを作成する取り組みを行い、その結果を分析し、理想の多文化共生に対して有効であることを述べていく。

【本論】

ハラルマップを制作するにあたって、私達はたくさんの試行錯誤をした。大きく分けて、1つは掲載の許可を取るための電話連絡、2つ目は奈良県観光局と奈良県猿沢インの施設の方々へお話を伺いに行った際に指摘を受けたマップの記述に関する改善点、3つ目は、ハラルフードを取り扱う飲食店にお話を伺った際に教わったことだ。

まず、1つ目の電話連絡では、私達は、奈良県で経営されているハラルフード取扱店をインターネットで調べた。そしてヒットしたお店一軒一軒に電話をかけ、掲載許可のアポイントメントを取った。電話をかけた時に数件のお店には掲載の承諾をいただいたものの、「自分の店はハラルフードを提供している覚えがない」というお店があったり、ずいぶん前に経営を終了しているお店があったりもした。またインターネットで調べた際には十数軒もの飲食店を確認したが、正式にハラルフード取扱店だと確認が取れたのは、およそその半分以下だった。私達は、インターネット上にある情報の不確定さを実感した。

2つ目は、マップをより良いものにするために、奈良県観光局と奈良県猿沢インの方々へお話を伺いに行った際にマップの改善点として言われた3つのことである。まず、猿沢インとは猿沢池のすぐ横にあるホテル 兼文化交流センターである。そこは奈良県が運営している、異文化交流を含めた奈良県の観光を促進する複合施設である。以下が実際に私たちが作成したマップである。



改善点である1つ目は、「文字の見やすさ」である。文字を載せる際に私達は日本語に加えて英語やローマ字での表記も用いていた。その場合、全世界の人が平易に読むことのできるヘボン式ローマ字を表記には用いた方がよいというアドバイスをいただいた。また見やすさという点でもう一つ挙げられたのは余白についてだ。お店の名前を掲載するとどうしてもそれぞれの店名の文字数に差がうまれると同時に、背景に余白ができてしまうあまりに余白が大きすぎると内容の充実が薄れてしまうため、関連のある絵や吹き出しの情報を載せるなど手を加えることが必要だとわかった。2つ目は、「一目で理解できる地図」を載せることだ。例えば、付近の神社やお寺の場所の目印も付けておくとより充実することや地図は広範囲ではなく、ある程度範囲を絞って載せることである。3つ目は、「受取手が常に新しい情報を得られるようにする」ということだ。そのためには、QRコードをマップに載せておくことが大切である。オリジナルのサイトをインターネット上に設置するなどし、実際の情報が変わる度に私達もサイトを更新する。受取手にスマートフォン等でその都度QRコードを読み取ってもらえば、新しい情報を共有することが可能なのだ。

奈良県観光課と猿沢インの方に助言いただいたこれら三つのことを受け、私達はもう一度ハラールマップのサンプルに改良を施すことにした。

さらに、奈良県で唯一ハラールフードを提供しているpyハラールキッチンというお店にお話を伺った際に教わったことを紹介する。マップに掲載される飲食店は「ハラール認証」という、ハラール認証機関から正式に承認を受けた国内認証団体が発行したハラール認証書を取得した店でなければならないのだ。つまり、ハラールフード以外の食べ物を扱っているお店はハラールフードを提供する際に必要なハラール認証という認証を得ていなくて、そのまま掲載していれば国際問題になりかねないことを教わった。私達はイスラム教の教えに触れ、このマップを制作する上で、国際問題のリスクも視野に入れて慎重に取り扱わなければならないと再確認した。

最後に、このマップから得られる効果として、Wi-Fiがない環境でも、紙媒体のマップを持って観光できることや、パンフレットを記念品やお土産として持ち帰って思い出になること、また、デジタルを扱うことが苦手な方にも使いこなせることなどがあげられる。地域のハラールレストランを発信し、奈良にムスリムの方のツールとして活用してもらおうことで、宗教や文化による壁をなくしより多くの人に、奈良県を好きになってもらいたいと私達は考えている。

【結論】

今回作成したハラルマップは、ムスリムでない方にも、ハラルをもっと知ってもらいたいので、完成したら、ご協力いただいたお店に置いてもらいたいと考えている。私は探究活動を行うまで、多文化共生とは、異なる文化を認めることだと思っていた。しかし、多文化共生とは認めることだけでなく、自分の勝手な固定概念で決めつけず、自ら周りをしようとする姿勢をもつことが大切だと分かった。他者を理解する姿勢を持つとしても、それを確かにするには難しいことだ。けれど、それでも一歩踏み込んで知ろうとすることは「理解すること」に繋がる。つまり多文化共生である。この探究活動を行い、ハラルマップを作成したことにより、自分たちで行動を起こし、多文化共生を実現するためにはというテーマの答えを出すことが出来た。この経験を生かして、まずは何か行動を起こし、全てのことに真剣に向き合いたいと思う。